

A-37 本邦各地産銘茶のL-アスコルビン酸含有量について

実践女子学園高校 泉 敬子

1. 日本国中各地の銘茶についてL-アスコルビン酸含有量を調査して産地と如何に関係あるかを調べる目的をもって本研究に着手した。

2. 静岡・奈良・滋賀・京都・福岡各地産の銘茶を用い、その浸出液及び酢酸エチルでタンニン物質を除いた浸出液につき、インドフェノール法によってL-アスコルビン酸量を測定した。

3. ①最も平均気温の高く降雨量の多い産地の緑茶がほかの産地のものに比し、かなりL-アスコルビン酸量が多くまた除タンニンしたものの割合も多かった。

②L-アスコルビン酸の含有量の多いものは比較的タンニン物質が少ない。

③上記の緑茶はL-アスコルビン酸量が市販の緑茶に比べてかなり多く、また、タンニン物質が少なく浸出液は非常に風味がよく、各産地の銘茶たるにふさわしい品質であった。

川根	福住	朝宮	原山	八女	徳山	市販品
静岡 mg(%)	奈良	滋賀	京都	福岡	静岡	
8.243	8.043	7.504	6.343	7.194	6.755	4.26
(除タン ニ ン)						
(7.950)	(7.578)	(7.071)	(5.712)	(6.817)	(6.214)	(3.66)

(L-アスコルビン酸量)